

青い海深い緑 火の国九州を行く

修学旅行

心に衝撃を与えた原爆資料

去る十月十六日から二十日まで四泊五日の日程で二年生の修学旅行が行われた。大阪を出て夜行列車で長崎に着き、諫早、雲仙泊、島原、天草松島、水前寺、阿蘇山、草千里、瀬ノ本高瀬泊、四泊五日の行程を終り、別府泊、別府から船で神戸港に着き、港からバスで学校に帰った。旅行直前まで、「服装を制服に定めるか、自由にするか」と問題になったが、結局、制服で行かれた。天気は連日の悪いことに、九州に着いてからは、晴れ間が全く見えず、雨の中の見学が多くなった。しかし、天候に恵まれながらも、秋の九州の風物と、集団生活の楽しさを味わい、無事終了した。

夜行列車は 肩がこる?

第一日 (十六日)

大阪・長崎

午後二時三十分、二年生はそれぞれ、たいそう荷作りで、大阪駅を出発した。列車は、修学旅行専用列車と、椅子はカチコチ、クッションも何もなかったものでは、「わあ、こんな電車?」とこれからの長い旅行を前に、少々疲れ気味。夜は狭いボックスに成長盛り高校生が四人も寝るのだから、当然はみ出し組は通路にこたえて寝た。スチームのため、車内の温度は急上昇、寝られない人も多かった。

第二日 (十七日)

長崎市内見学 (大浦天主堂、グラーバー邸、平和公園、国際文化会館、諫早・雲仙(地獄めぐり))

朝の六時、眼目さすりながら、長崎市内見学、長崎らしい感嘆的な写真もあり、原爆の悲惨さを伝える。雲仙(地獄めぐり)は、原爆の資料が展示されている。雲仙(地獄めぐり)は、原爆の資料が展示されている。雲仙(地獄めぐり)は、原爆の資料が展示されている。

グラーバー邸

別府

阿蘇山

水前寺

長崎

雲仙

島原

天草

松島

瀬ノ本

高瀬

別府

雲仙

島原

天草

松島

瀬ノ本

高瀬

別府

雲仙

島原

天草

松島

瀬ノ本

高瀬

別府

雲仙

島原

天草

松島

瀬ノ本

高瀬

別府

雲仙

島原

天草

松島

瀬ノ本

高瀬

別府

雲仙

島原

天草

松島

瀬ノ本

高瀬

別府

雲仙

島原

天草

松島

瀬ノ本

高瀬

別府

雲仙

島原

天草

松島

瀬ノ本

高瀬

別府

雲仙

島原

天草

松島

瀬ノ本

高瀬

別府

雲仙

島原

天草

松島

瀬ノ本

高瀬

別府

雲仙

島原

天草

松島

瀬ノ本

高瀬

別府

雲仙

島原

天草

松島

瀬ノ本

高瀬

別府

雲仙

島原

天草

松島

瀬ノ本

高瀬

別府

雲仙

島原

天草

松島

瀬ノ本

高瀬

別府

雲仙

島原

天草

松島

瀬ノ本

高瀬

別府

雲仙

島原

天草

松島

瀬ノ本

高瀬

別府

雲仙

島原

天草

松島

瀬ノ本

高瀬

別府

雲仙

島原

天草

松島

瀬ノ本

高瀬

別府

雲仙

島原

天草

松島

瀬ノ本

高瀬

別府

雲仙

島原

天草

松島

瀬ノ本

高瀬

別府

雲仙

島原

天草

松島

瀬ノ本

高瀬

別府

雲仙

島原

天草

松島

瀬ノ本

高瀬

別府

雲仙

島原

天草

松島

瀬ノ本

高瀬

別府

雲仙

島原

天草

松島

瀬ノ本

高瀬

別府

雲仙

島原

天草

松島

瀬ノ本

高瀬

別府

雲仙

島原

天草

松島

瀬ノ本

高瀬

別府

雲仙

島原

天草

松島

瀬ノ本

高瀬

別府

雲仙

島原

天草

松島

瀬ノ本

高瀬

別府

雲仙

島原

天草

松島

瀬ノ本

高瀬

別府

雲仙

島原

天草

松島

瀬ノ本

高瀬

別府

雲仙

島原

天草

松島

瀬ノ本

高瀬

別府

雲仙

島原

天草

松島

瀬ノ本

高瀬

別府

雲仙

島原

天草

松島

瀬ノ本

高瀬

別府

雲仙

島原

天草

松島

瀬ノ本

高瀬

別府

雲仙

島原

天草

松島

瀬ノ本

高瀬

別府

雲仙

島原

天草

松島

瀬ノ本

高瀬

別府

雲仙

島原

天草

松島

瀬ノ本

高瀬

別府

雲仙

島原

天草

松島

瀬ノ本

高瀬

別府

雲仙

島原

天草

松島

瀬ノ本

高瀬

別府

雲仙

島原

天草

松島

瀬ノ本

高瀬

別府

雲仙

島原

天草

松島

瀬ノ本

高瀬

別府

雲仙

島原

天草

松島

瀬ノ本

高瀬

別府

雲仙

島原

天草

松島

瀬ノ本

高瀬

別府

雲仙

島原

天草

松島

瀬ノ本

高瀬

別府

雲仙</

病氣やけがをして、また生れながらにして身体障害というハンディを背負った人々。彼らは日常生活でさえ営んで行くのが困難な場合が多い。そういう人達が1人の社会人として人権を確保されなければならない。我々は今回の特集にあって色々な福祉施設、福祉協会などを回りました。我々はそこで多くのことを学びました。

特集

社会福祉

現状への疑問符

身体障害者に退らず、そういう生活の苦しい境遇にある人々に対して、どんな態度であるべきなのでしょうか。また現在、日本の社会福祉の姿を少しでもとらえ、これらの日本の社会福祉に対する姿勢を考えて行く事が必要でしょう。

数少ない施設

府立施設を訪ねて

★ 身体障害者の団体の生活の場である二つの府立施設を訪ねて、実際に身体障害者と接している人達の話をつかってみた。その結果、われわれが得た施設というものの知識は、まだまだ未熟なものである。もっと、それに加えて、その知識を、広くもつための努力をする必要があるのではないだろうか。

聖母整肢園

私たち新聞部員五人は、実際に施設というものがどのようなものであるのかを自分の目で見るために、十一月二十九日聖母整肢園を訪れた。そこで、シスターに最初のことばを聞いた。昭和四十五年五月一日に開園し、ついで第二期工事にかかり、昭和四十五年十一月に完成したもので、比較的新しいものである。内部は施設部門と病院部門と外来部門に分かれている。施設部門の方は、さらに軽度棟(定員六〇名)、重度棟(定員四〇名)に分かれ、それぞれ入園児に対して身体機能回復のための機能訓練が理学療法士、作業療法士の手によって行なわれる。また、言語治療も必要に応じて行なわれる。そのほか看護婦、生活指導員の指導のもとに、日常生活動作の訓練も行なわれる。それに、学令児は、園内学級(南田小学校分校)が設けられている。病院部門の方は、目的として手術のため、検査のため、歯科治療のため、一般の心身障害児は歯が悪いと、普通の歯医者では治しにくいと、母子入園のため(主として脳性マヒ児の訓練のため、母親に短期間で訓練方法を覚えてもらおうと、なにかあると、それに、在宅身体不自由児が肺炎、けいれんなどで緊急に入園治療を必要とする場合に設けられている。施設部門病院部門とも入園期間は一年間だけである(家庭にもつた場合、その子の居場所がなくなっているというところもある)。入園希望者がたくさんいて、順番にあくまで待っているが、まだ(外来部門は、診療、検査、訓練を実施している。以上が、われわれが施設について得たものである。次に、施設及び身体不自由者に対する世間の目に対して思う

40%が受けていない

身障者の学校教育

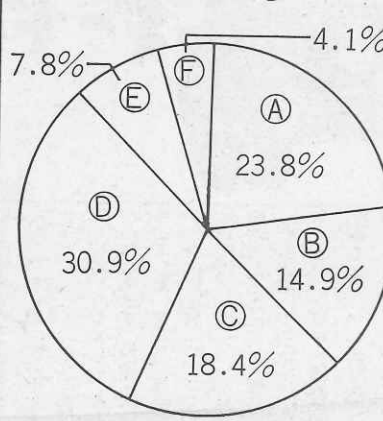
この特集を取りあげたにあたり、われわれ新聞部員は、正確な資料を得るため、身体障害者のことを扱ったおられた各機関を訪ねて、話を聞いた。身体障害者の中でも、特に、身体障害者十人未満、その中でも身体不自由児の割合は、不明といわれるが、この割合は、級数の少ない方が障害が重い。また、不明といわれるのは、この級に入れたくないというのがある。身体障害者の割合は、障害の種類別の割合

障害の種類	割合
1級	13.9%
2級	19.5%
3級	13.0%
4級	14.9%
5級	9.5%
6級	11.0%
その他	8.4%
その他	9.9%

正しい理解が必要

わが国には、身体障害者に対する正しい理解が必要である。身体障害者とは、身体的な障害がある人であり、知的な障害がある人ではない。身体障害者に対する理解が、社会の発展に大きく影響する。身体障害者に対する理解が、社会の発展に大きく影響する。身体障害者に対する理解が、社会の発展に大きく影響する。

就学状況



- ① 未就学
- ② 猶予・免除
- ③ 中学校
- ④ 小学校
- ⑤ 高校
- ⑥ その他

広がる家庭クラブへの疑問

編輯後記